

第1回野外体験保育有効性調査・検討委員会 議事概要

- 1 日 時 平成27年9月8日(火)午後2時～4時
- 2 場 所 三重県吉田山会館 1階 特別会議室
- 3 参加委員 池田委員、井上委員、宇佐美委員、木戸委員、服部委員(50音順)
- 4 内 容

(1) 野外体験保育有効性調査について

①事務局から

野外体験保育有効性調査の目的や、当委員会の役割、調査検討の進め方、スケジュール等について説明

②委員からの主な意見

- ・野外体験保育に見られる地域の皆さんの強い関わりについて、どうすれば実現できるか示すことができればよいと思う。
- ・有効性について、地域の方や保護者向けの啓発も必要である。
- ・今の子どもたちには体験が足りないと感じる。特に若い保育士の質も高めてほしい。
- ・普及方策はハードよりもソフトではないかと感じる。「森のようちえん」や自然体験活動団体のノウハウを活用できたらと思う。
- ・保護者がさまざまな保育を選択できるようになるとよい。
- ・研究者の間では、野外体験保育を受けた子どもたちのその後の小学校生活について重要な研究テーマとなっているため、卒園後3～5年後の子どもの様子も確認出来ないか。

(2) 実態調査について

①事務局から

実態調査として、保育施設向け、野外体験保育を実施する施設向け・保護者向けの調査を行うことについて説明

②委員からの主な意見

- ・調査の記入者となる保育者にも、ベテランと若い人がおり、若い人は経験が少ない。
- ・アンケート項目については、施設として判断が難しいものがある。
- ・子どもの変化については、卒園後の状況も調査できないか。

(3) 普及方策について

①事務局から

普及方策の検討に向けて、他県での取組を紹介

②委員からの主な意見

- ・指導者養成の場として、先進の保育の現場等で勉強できる機会を支援することがよいと思う。

- ・単なるセミナーや冊子の作成では効果がでない。モデル園を指定し、専門家を派遣することで、密着してモデル園の保育者を指導し、保育者や子どもたちが変わった姿をPRできれば効果的である。ただし、少なくとも3年以上、モデル園に関わることができれば、実際に変化が期待できる。
- ・園の子ども達を自然体験につれて行ける助成が必要ではないか。
- ・実際に、自然体験保育を実施した園に対する支援は必要。また、思いを持った保育士や関係者同士の交流の機会、研究会の開催などをバックアップできれば、その機運も高まるものと考ええる。
- ・自然体験のプログラムを作っていただくのは有意義ではないか。自然体験施設でも、小学生以上を対象としたプログラムは多いが、幼児対象のものは極端に少ない。

(4) その他（全体を通して）

委員からの主な意見

- ・子どもの頃、地域の自然に触れた人は、将来、その土地に戻ってくる。生まれた土地を大切に感じることは大事で、そのために、環境教育が必要である。
- ・なぜ自然体験かを議論するには、今後の三重をどうしていくかの考えが必要。三重県には、豊かな自然環境があるので、保育にこの環境をどう活用するのかを考えると、子どもの五感を通して人間を作っていくことができる自然体験が軸になる。
- ・「豊かな自然を体験」するよりも「自然を豊かに体験」することの実現（まちの中の少しの自然でも、それを工夫してどう体験するか）が大切で、自然体験保育の実施により、子どもの主体性を大切にしたい保育が実現できればと思う。